

平成 30 年度
交通安全指導者養成講座運営支援業務
事業報告書



内閣府

平成 31 年 2 月
内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

目次

1. 講座概要	1
2. 日程表	3
3. 講義概要	5
開講式・主催者挨拶	5
近藤 共子(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付交通安全対策担当 参事官)	
講義「交通安全指導における効果的な話し方」	7
藤原 徳子(株式会社ビジネスファーム 代表取締役)	
講義「紙芝居の演じ方」	17
おの いづみ(イラストレーター)	
講義「幼児・学童の発達と交通安全学習について」	22
山口 直範(大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 教授)	
講義「交通安全教育デモンストレーション」	26
警視庁交通部交通総務課交通安全教育係	
講義「いきいき運転講座」	29
池田 佳代(株式会社コンセプトン 代表取締役)	
グループ討議結果発表	34
講義「自転車の交通安全教育について」	46
石井 征之(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹)	
閉講式・主催者挨拶	53
近藤 共子(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付交通安全対策担当 参事官)	
4. アンケート集計結果	54

1. 講座概要

目的

本事業は、地域住民の交通安全意識の向上、交通安全思想の普及・浸透及び交通事故防止のための街頭活動、交通安全教育等を行っている交通指導員(シルバーリーダーを含む。)及びこれら交通指導員を指導育成する立場にある者(以下「交通指導員等」という。)に対し、交通安全教育に関する基礎的理論及びその実践的手法に関する知識・技能を習得させ、指導的役割を担う者を養成することにより、その効果的な活動を促進し、安全で快適な交通社会を形成することを目的として実施する。

期間

平成 31 年 1 月 28 日(月)～30 日(水)

会場

アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北4 - 2 - 25)

〈アクセス〉

- ・JR 中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅
- ・地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(1または A1 出口)
- ・地下鉄新宿線 市ヶ谷駅(A1 または A4 出口)

受講者

【交通指導員】

都道府県又は市区町村の長等から委嘱を受け、交通安全を目的として街頭活動、交通安全教育、広報啓発活動に従事している交通ボランティア(高齢者交通ボランティアであるシルバーリーダーを含む。)

【交通指導員を指導育成する立場にある者】

交通指導員の指導者及び都道府県又は市区町村の交通安全対策主管課の職員

受講者数

113名

配布資料

No	資料名
1	講座のしおり(当日配布版)
2	配布資料(ホチキス止め冊子)
3	交通安全紙芝居「ケキシダビトン」
4	交通安全絵本「はなびをみにいこう！」
5	「いきいき運転講座」講義資料
6	「いきいき運転講座」DVD
7	「いきいき運転講座」アンケート
8	事例発表資料
9	アンケート(兼 講師への質問用紙)

2. 日程表

【1日目 / 1月28日(月)】

時間	プログラム	会場
12:30 ~ 13:15	受付	霧島(6F)
13:15 ~ 13:30	オリエンテーション	霧島(6F)
13:30 ~ 13:45	開講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全対策担当 参事官 近藤 共子	霧島(6F)
13:45 ~ 15:25	講義「交通安全指導における効果的な話し方」 株式会社ビジネスファーム 代表取締役 藤原 徳子	霧島(6F)
15:25 ~ 15:35	休憩	
15:35 ~ 16:35	講義「紙芝居の演じ方」 イラストレーター おの いづみ	霧島(6F)
16:35 ~ 16:40	休憩	
16:40 ~ 17:00	グループ討議事前準備(役割分担)	霧島(6F)

* 敬称略

【2日目 / 1月29日(火)】

時間	プログラム	会場
09:00 ~ 09:20	受付	霧島(6F)
09:20 ~ 11:20	グループ討議	霧島(6F)
11:20 ~ 11:35	討議結果とりまとめ	伊吹(東)(6F) 阿蘇(東)(6F)
11:35 ~ 12:50	休憩	
12:50 ~ 13:20	事例発表	
13:20 ~ 13:30	休憩	
13:30 ~ 14:30	講義「幼児・学童の発達と交通安全学習について」 大阪国際大学 人間科学部 人間健康学科 教授 山口 直範	霧島(6F)
14:30 ~ 14:40	休憩	
14:40 ~ 15:20	講義「交通安全教育デモンストレーション」 警視庁 交通部 交通総務課 交通安全教育係	霧島(6F)
15:20 ~ 15:30	休憩	
15:30 ~ 17:00	講義「いきいき運転講座」 株式会社コンセプトン 代表取締役 池田 佳代	霧島(6F)

* 敬称略

【3日目 / 1月30日(水)】

時間	プログラム	会場
09:00 ~ 09:20	受付	霧島(6F)
09:20 ~ 10:20	グループ討議結果発表・質疑応答	霧島(6F)
10:20 ~ 10:30	休憩	
10:30 ~ 11:30	講義「自転車の交通安全教育について」 一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之	霧島(6F)
11:30 ~ 11:40	休憩	
11:40 ~ 11:55	閉講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全対策担当 参事官 近藤 共子	霧島(6F)
	修了証配布・アンケート回収(机上)・解散	

* 敬称略

3. 講座概要

開講式・主催者挨拶 / 1月28日(月)13:30~13:45

近藤 共子

(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付
交通安全対策担当 参事官)



ただいま紹介いただきました内閣府 交通安全対策担当参事官の近藤でございます。

開講に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

受講者の皆様には、お忙しい中、遠方から御参加いただきまして誠にありがとうございます。

また、平素から地域の中心となり交通安全対策に取り組んで頂き、深い御理解と多大なるお力添えを賜り、厚く御礼を申し上げます。特に、「春・秋の全国交通安全運動」及び「交通事故死ゼロを目指す日」では、地域に密着した街頭活動に熱心に取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、昨年の交通事故情勢につきましては、皆様を始め、多くの交通ボランティアの方々の御協力と御尽力の下、各種の施策を推進した結果、24時間以内の死者数は3,532人で、過去最少であった前年を、更に下回る結果となりました。

また、交通事故発生件数及び負傷者数はともに14年連続で減少しております。

これらは、皆様の日々の献身的な街頭活動や地道な啓発活動の成果の賜物であり、その御尽力に対しまして、重ねて御礼を申し上げます。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることに変わりはありません。特に、交通事故死者数全体のうち、65歳以上の高齢者の割合は依然として高く、55.7%と過半数を占めております。

また、交通事故による負傷者数も約52万人を数えるなど、交通事故情勢はいまだ厳しい状況にあります。

交通事故防止は、依然として国を挙げて取り組むべき重要な課題であり、悲惨な交通事故を更に減らすためにも、子どもや高齢者等の交通弱者の安全確保を始めとする「人優先」の交通安全思想を基本とし、関係機関・団体等と連携して交通安全対策に全力で取り組んでまいります。

また、政府では、高齢化を踏まえた高齢運転者による交通事故防止対策として、80歳以上の高齢運転者による交通事故死者数を平成32年(2020年)までに200人以下とする目標を掲げるとともに、認知症対策の強化など改正道路交通法の円滑な施行、高齢者の移動手段の確保など社会全体で高齢者の生活を支える体制の整備、安全運転サポート車の普及啓発など高齢運転者の特性を踏まえた更なる対策を、緊急かつ強力に推進することを決定し、現在、関係省庁と連携して必要な施策を推進しております。

今日、自動運転社会と言われていますが、こうした新しい技術については良い物は積極的に活用していきたいと思いますが、まだまだ発展途中のものもあり、どうやって使ったらよいのかについても、正しく・分かりやすく伝えていく事が重要になると考えられます。

これらの交通安全に関する施策は官民一体で取り組んでいかなければならず、また、地域で活躍なさっている皆様方の役割も非常に大きく、内閣府といたしましても皆様方の御活躍を大いに期待しているところであります。

本日から3日間にわたり行われる本講座は、交通事故防止のため街頭活動や交通安全教育に従事されている方、また、これらの分野において指導員になられる方を対象に、内閣府の事業として毎年度実施しているものです。

今年度は、子ども、高齢者の交通安全教育に関する講義やテーマ別のグループ討議などにより、基礎的理論や実践的手法に関する知識・技能を身に付けていただけるようにプログラムを組んでおります。

交通安全教育は、生涯教育であるとも言われており、幼児から高齢者にいたるまでの各年齢層に応じた、様々な形での交通安全教育が必要であることから、この講座には大きな意義があるものと考えております。どうか問題意識を持って臨んでいただきたいと思います。また、この機会を通じて、同じ志をお持ちの方々同士の横のネットワークを広げていただけると幸いです。

最後になりますが、皆様方がこの3日間の講座で所期の成果を挙げられ、有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、開講の挨拶といたします。

講義「交通安全指導における効果的な話し方」 / 1月28日(月)13:45～15:25

藤原 徳子(株式会社ビジネスファーム 代表取締役)



配布資料:

「平成30年度交通安全指導者養成講座」配布資料

本講義の目標:

- ・法規の知識はあっても、それを伝える術は難しい。上手く影響を及ぼす(ルールを守ってもらう)ための技術を身につける。
- ・話し方のスキルを学び、実践する。

オリエンテーション【交通安全指導者の使命】

1. 交通安全指導者は「規範を守る道徳的な人間としてのお手本」

損得ではなく善悪を基準として指導を心掛ける。自分自身の道徳観を上げることが地域を上げる底力になる。

(1) 交通安全指導の「目的」

・尊い命を守り、安心、安全な街づくりのため。 地域の輪をつくるためには、声掛けなどが有効。

(2) 交通安全指導の「目標」

- ・交通ルール、マナーを守る態度を育成する。
- ・安全に道路を通行するための知識、技術、技能を身につける。

2. 交通安全指導を通じて、地域住民の自己肯定感を高める

「倫理観の高い人は交通ルールを守る」

3. 交通安全指導を行う上での心構え

(1) 聴いてもらうという姿勢が大切。

(2) 自分を磨くこと。教えることで身につくこともある。

(3) 話し方の3原則(明朗・正確・肯定表現)を使う。未来志向で前向きな話をする。

(4) 目的と目標を達成するために、熱意を持ち、自信ある態度で指導にあたる。

・新しい事などを積極的に取り入れ、知識、経験を積むことにより、生まれるものである。技能は先輩方に教わるとよい。

(5) 指導者の「タスク(課業)」を理解する。

・タスクとは「課題、職務、やるべきこと、相手にやってもらうこと等」。タスクを明確にすることで、目標をたて、教育技法と指導技術の選択・決定ができる。

指導者のひと言は人の一生を左右する。

・地域で愛される指導者を目指す。

- ・「こころ」は伝えたい相手がいるから生まれるもの。言葉や行動で伝える。自分の思いを伝える表現や言葉数をたくさん持っている人は「こころ」が豊かな人。そこを学習する。
- ・叱る時は怒鳴らない。まず良い点をあげ、次に改善点を提案すると上手くいく。

4. 求められる能力

(1) 分析力と観察力

地域住民(幼児・学童・生徒・保護者・年配者等)の話をよく聴き、言わんとすることを早く理解する。(聴くべき事柄を具体的によく聴いてあげる。話を聴く力)
話の要点を正確に掴み、まとめること。

(2) 身体的・・・健康、視力、聴力、音声明瞭。話す立場なので鮮明に。

(3) 人柄・・・人間的魅力(指導を受ける方々への影響力)

- ・地域から愛されるこころ豊かな指導者が目標。
- 時間と約束を守ること。
- 誠実・明朗・公平であること。
- 嘘やごまかしがないこと。

1【効果的に話すための準備】

1. 心温まる笑顔で「相手の心に残る指導」を！

- ・図の9つの表情を意識的につくってみた時、一番難しいのは「」の表情です。なぜならば、相手に優しい視線を向けている時、誰もが自然に口角が上がるからです。自分の気持ちや感情は、すぐ口角や目にあらわれますので、注意したいものです。表情の良し悪しを決めているのが、「口元」であるのがわかりますので、鏡を見て、表情をつくる練習をしましょう。
- ・口角を上げる表情は印象がよく、口角が真一文字の表情は相手に真剣に対応する時に有効なので、この二通りを使いこなせるようにする。

2. 話す時の心得として

(1) 幼児・学童に対して

分別のある賢い子どもを育てるために

- ・幼児語を避け、丁寧言葉で対応する。
- ・大人と同じ言葉、正しく「です・ます」を使う。

質問話法の活用

- ・「... は、あるかな？(ありますか?)」と、身近な例を挙げて問いかける。

(2) 学生・高齢者に対して

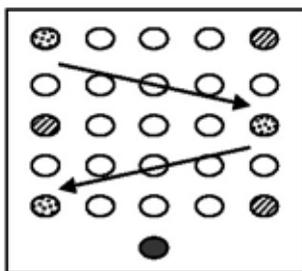
「命令形」より「依頼形」

- ・「～して下さい」ではなく、「～していただけますか」という言い方にする。キャリア、プライドを持っている人も多いので、相手に歩み寄ることが大切。

- 相手の話を復唱する時は、相手の使った言葉で繰り返す
- 相手の言葉を直す必要はない。
- 相手の話を復唱する時は、相手が使った言葉でそのまま繰り返す。(ミラーリング)
- 相互関係の一線を越えない
- 「親しみを勘違いしない」ためにも、丁寧な言葉で対話する。
- 皆平等に「です・ます」言葉を心掛ける。
- 話し方に『情』を込める
- 「人は、ものの言い方に影響される」。

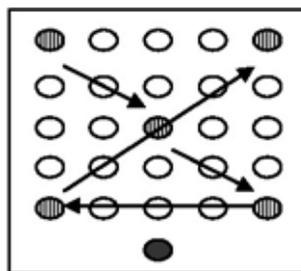
(3) 基本動作としての視点法

(1) 3点法



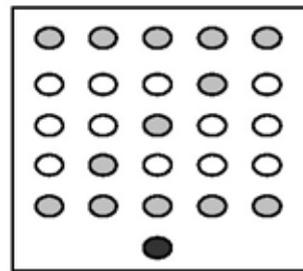
受講者数
少人数から30名位

(2) 5点法



受講者数
30名～80名位

(3) Z視点法



受講者数
少人数から多数

目線(視線)は相手にとっての認知行動。重要なスキルとなる。

3. 自分の印象を管理する

好意の統計(アルバート・メラビアン)

Totallinking	=	Faciallinking	+	Vocallinking	+	Verballinking
(100%)		(55%)		(38%)		(7%)
		・笑顔や表情		・声の調子		・言葉
		・身嗜み		・話し方等		・話の内容等
		・所作等				

- ・第一印象...刷り込み(imprinting)。
- ・第一印象が大切。所作(機敏さ)、身だしなみを気にするようにする。
- ・話し方は音階を上げると意識すると明るい印象になる。
- ・正しい言葉遣いを使う。(ヤバイや～的になど、流行言葉は使わない)
- ・話しの内容としては、ネガティブなことは避ける。

4. 話している時の基本動作(留意点)

- ・挨拶の仕方・・・語先後礼(先に言葉を発し、後から動作をつける)

挨拶は重要。禅問答と思うこと。子ども達には「挨拶ができるようになればいい」程度の認識で指導するとよい。

・視線、手の位置、立ち方、立ち位置など。

5. 美しい所作

- ・相手の目を見る・・・眼球を見ないで目頭と目頭の間を見ると気恥ずかしさが無くなる。
- ・うなずき・・・相手の話をきちんと聞いているという合図になる。
- ・言葉を添える・・・話のキーワードに再陳述(おうむ返し)をすると相手が安心するポイントとなる
- ・濁音と鼻濁音の使い分けをきちんとするときれいな話し方ができる。
- ・挨拶の時などは指先を揃える、動作にメリハリをつけるなど。

6. 話す力“メッセージの伝え方”

- (1) 最も言いたいこと(主題)を先に述べる・・・結論から話すことで、聞き手は話の内容を理解しやすくなる。
- (2) 共通言語を用いる・・・相手の興味を持つ事柄や分かりやすい言葉などを調査し、使用するとよい。難しい話をしない。
- (3) 筋道を立てて話す(ナンバリング方式)・・・論理思考力の強化になる。
- (4) 短文で話す・・・相手の記憶に残るように短文で話す癖をつける。

7. 良い点を褒め(認め)ながら指導する

指導中、言葉を発している(お話をしている)人を無視しないよう、目をかける行為として、視点法を活用します。人には「無視されたくない」、「自分の存在を他者に認めてもらいたい」という傾向があります。目配せしたり、挨拶したり、話しかけたりすることは安心感につながります。指導者が、一人ひとりの存在を認めてあげることで、心を開き、指導者のお話を聴こうとするのです。

2【交通安全指導等の事前準備】

1. 話材(お話をする時の母体となるもの)を探す

- (1) 話題を見つける・・・話題集め。

自分の体験が一番... 話材の宝庫!

他人の話でもOK...対 話者、講演、テレビ、ラジオ等

書かれた物でもOK... 歴史書その他書物、雑誌、新聞、インターネット等

- (2) 話題を集めるための「情報アンテナ」を立てる・・・話すための材料を日頃から意識して探すよう心掛ける。

情報収集しようとする意欲を持つ。

心を留めて物事をみる。(鋭い観察力)

問題意識を持ち、様々なことに興味と関心を示す。(知的好奇心)

日頃から、倫理観や道德観の高い私見を持つ。

2. 主題(自分が最も言いたいこと)を明確にする

- ・主題を述べる時は、聞き手の記憶に残るよう、狭く絞って短く言い切る(20～30文字以内で)

- (1) 主題は、狭く絞って一番始めに述べる。(15秒)
- (2) 話題(事実・実例・例話)をありのままに述べる。(2分20秒)
- (3) 主題をもう一度繰り返して結ぶ(15秒)・・・記憶に残る

3. 説得力が増す“5つの要素”

- (1) 自分がしたこと、見たことをそのまま話す。(情景が浮かぶ、イメージが湧く)
- (2) 言ったこと、聞いたことをそのまま話す。(会話、動き、イキイキ)
- (3) その時思ったこと、感じたことを話す。(話し手の心の動きが伝わる)
- (4) そのことについての現在の感想や意見を話す。(人柄が現れる)
- (5) 世間一般の言い習わしを入れる。(金言、名句、諺など)

4. 交通安全指導等を受ける人は、どのような話しを聞きたがるのか

- ・自分に関係のある、有利になる話。
- ・知識欲を満たせるもの、新しいものや珍しいもの(旬の情報)、好奇心をそそる話。

5. 講義の組み立て方

- (1) 「なぜ、大切なのか」・・・例) 自転車走行ルールが何故必要なのか？
- (2) 「なぜ、そうなるのか」・・・例) 事故が起こる可能性があるから。
- (3) 「では、どうするのか」・・・例) 自転車走行ルールを学ぶ。

6. わかりやすく話すためのコツ = 例話を用いる

- ・話の重要な裏づけとして説得力がある。
- ・例話は実話を話すのが一番効果的だが、指導内容から逸脱しなければ、また趣旨が伝われば創作しても問題ない。

7. コメントをする時の留意点

- (1) コメントの仕方

サンドイッチ法が有効。

- ・良い点を褒める。
- ・直す点、問題点を注意する。
- ・励ましの言葉を贈る。

- (2) 留意点

褒め過ぎはダメ。(意識過剰になり、次へのプレッシャーとなる)

コメントは短めに。

全員同じくらいの時間で。

温かい気持ちを忘れない。

- ・良い点と改善点のバランスを考えること。
- ・一人に集中的にストロークを提示しない。

8. 思考整理術をマスターする *ロジックツリー(論理の木)を用いたスピーチトレーニング。

- ・論理的な話し方。
- ・思考を整理するためのフレームワーク法。
- ・主旨を最初と最後に言うことで一番言いたいことを鮮明に印象付ける。
- ・主旨・テーマ 結論 それを裏付ける属性 属性に対しての総括としての見解 結論 主旨
- ・この方法で進めていくと言いたいことが整理されキチンと言いたいことが伝わる。

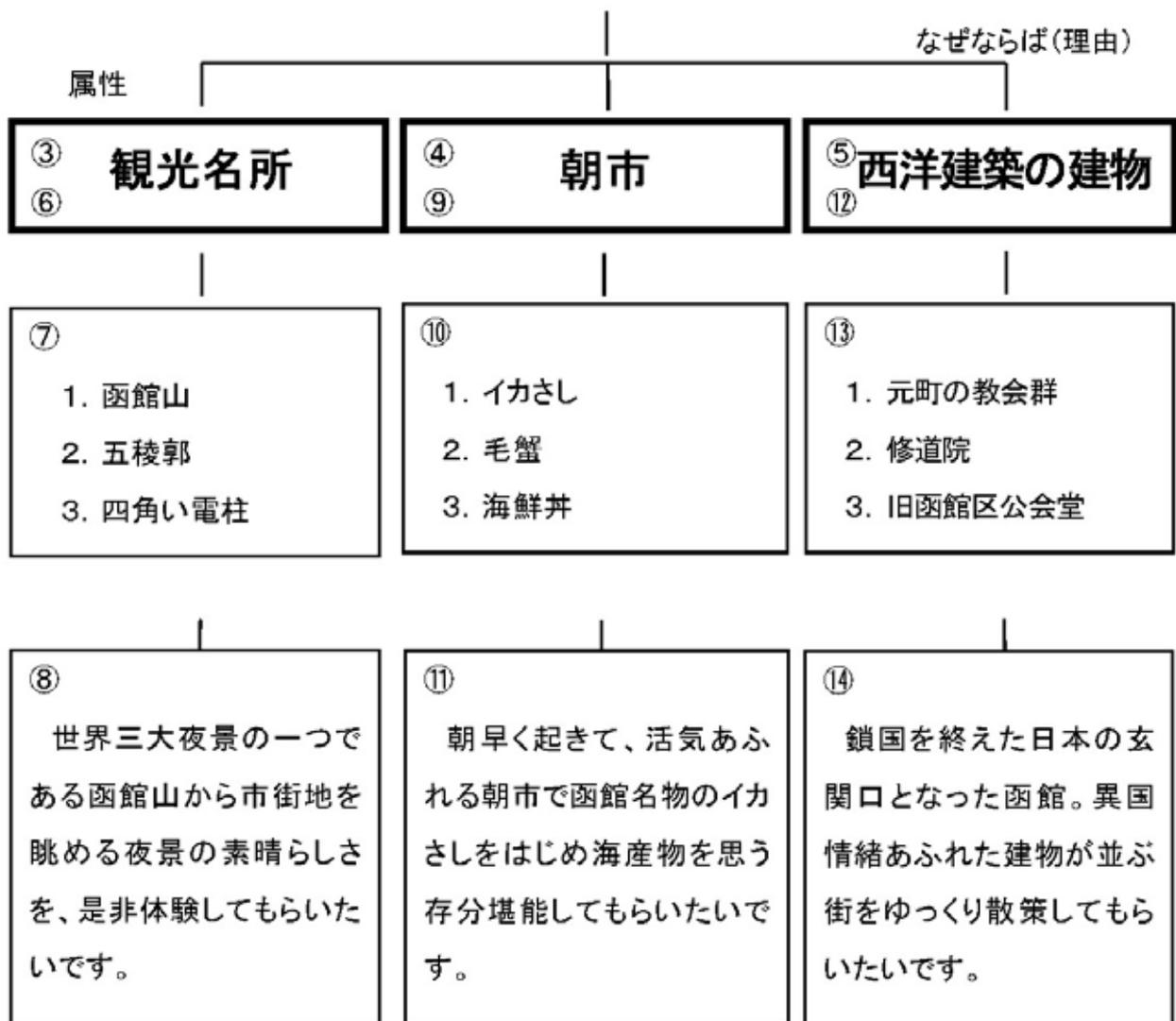
【ポイント】

- (1) 文字量を揃える... 簡潔明瞭な文章
- (2) 文体表現を整える...表現方法が統一 されると理解しやすい
- (3) 異質な情報を混在させない... 視点のズレ防止

例

テーマ: ①
私がお薦めする観光地 ⑬

結論: ②
函 館 ⑮



9. 幼児の交通事故原因を踏まえた指導内容(参考)

(1) 主な原因

道路への飛び出し

車両の直前・直後の横断

(2) 指導内容

指導内容が決まったら、教育技法を選択します。交通安全指導の場合は、「紙芝居」「絵本」「映像」「腹話術」「積み木や園庭(道路の演出)」「クイズ」「ゲーム」等があります。

歩行する場所と歩行の仕方

横断歩道の渡り方

信号機のあるところでの渡り方

信号機のないところでの渡り方

踏み切りの渡り方

標識・標示

(3) 留意点

車両近く、または物陰での遊び

道路を隔てた対面者への言葉がけ

手を挙げてても車両は止まらない

後ろの音にも注意

目立つ色の服

反射材の貼付

10. 高齢者の交通安全意識を啓発する

(1) 交通事故の原因

歩行者その他の「発見の遅れ」

信号が変わる時や車間距離などの「判断の誤り」

アクセルとブレーキなどの「操作上の誤り」

(2) 事故防止に向けた取り組みとして

反射材をつけるための啓発活動 粘り強く指導していく。

免許証の返納を促すための啓発活動 粘り強く指導していく。

認知症と老化現象は別問題

3【交通安全指導等の実践】

1. 交通安全講習、イベント等での講話準備

(1) 下記の【交通安全講習、イベント等(状況・場面)】での目標を明確にする。

(2) 参加者に何を伝え、どのような講話を行うのか? 「テーマ」を必ず設定する。

(3) その後、主題を30文字以内でまとめ、話の展開を考える。

(4) 生きた話をするための仕上げは『表現力』である。

2. 講話の実践

【交通安全講習、イベント等(状況・場面)】での指導テーマ。

1 幼稚園・保育園で、「交通安全指導(例えば、横断歩道の渡り方)」について。

2 小学校・中学校で、「自転車の歩道通行マナー」について。

3 高校で、「バイクや車の免許取得に関する指導」について。

4 保護者に対して、「自転車が歩道を通行できる要件」について。

5 老人クラブ・高齢者福祉施設で、「反射材の着用」「横断歩道の渡り方」について。

テーマ 「」

主題 上のテーマで、最も言いたいことを30文字以内でまとめる。

話題 上の主題を裏づける内容として、何を参加者に伝えたいのかをナンバリング方式でまとめる。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

緊張して頭が真っ白になってしまうので、そんな人でも人前に出て上手に話せる訓練方法など教えてください。

【回答】

まず、「緊張して頭が真っ白になる」という方は、たくさんいらっしゃると思います。緊張感を持って、仕事をするのは当たり前だと考えます。感情の高揚として、「あがってしまう」ということを意味していると推察しますので、以下に回答させていただきます。

「なぜ、緊張する(あがる)のか？」その理由を追究すると、解決策は見つかります。本講座の趣旨や内容を鑑み、回答すると理由は2点です。話す内容(話材)が乏しい。指導経験が浅い。以上です。従って、指導項目に対して、日頃から伝えたいことを整理しておくことが肝要です。そのためにも、知識と情報を増やし、時には他者の講習を見て、自分自身の交通安全に対する考えを確立することだと考えます。テキストに記載している指導スキルを愚直に行動化して、背筋を伸ばし、堂々と振る舞っていただければと思います。そして、経験を積むことに尽きると言えます。

その他の理由を申し上げると、「うまく指導しよう」、「すべての聴衆者に満足してもらおう」、「自分をよく見せよう」などと思うと、緊張感はどんどん高まっていきます。従って、指導者として伝えるべきことをきちんと伝えるといった「指導者としての責務」を果たすことに意識を向けることで、「あがり」はなくなっていくしますので、安心して上述の2点を心掛けていただければと思います。

【質問】

「説得力のあるシナリオにするためにはフィクションがあってもよいではないか」に大発見、自信がつかれました。著書はありますか。

【回答】

貴殿の経験から、お話ししたいことはたくさんあるのではないのでしょうか？説得力のある話に仕上げるためにも、色々な情報を加えて、例話づくりにチャレンジしてみてください。

著書ですが、一番新しいところで申し上げますと、昨年10月に生産性出版から『アクティブ・マナー』という本を出しました。銀行員向けのマナー本ですが、内容は万人に共通するものです。ご一読いただけると嬉しいです。もともと行動科学が専門ですので、同じ出版社から『12のリーダーシップストーリー』という本も出しています。

【質問】

藤原先生の地方への出張も可能ですか。

【回答】

はい、可能です。協議が必要な部分もございますが、ご要望があれば全国どこへでも参ります。

講義「紙芝居の演じ方」 / 1月28日(月) 15:35 ~ 16:35

おの いづみ(イラストレーター)



配布資料:「紙芝居の演じ方」講義資料

紙芝居を演じる前に必ず下読みをすることが大切。繰り返し下読みをすることによってキャラクターを設定し、登場人物の気持ちをつかむこと。(下読みをする際はト書きを参考にするとおのずと主人公の気持ちになれる)聞かせるためには、演じての技術がある程度必要。

【発声の基本】

- ・マイクが無くても声が通るくらいの発声 お腹に力を入れて声を出す
- ・話す前に口の開け方の練習「あ・え・い・う・え・お・あ・お」「か・け・き・く・け・こ・か・こ」...、という発声練習をする

【間の取り方】

- ・短い間(息つぎの間)の取り方。
- ・声の使い分け(ドレミファソラシドの音階)。

【喜怒哀楽の表現の仕方】

- 喜 = 明るく、楽しく笑う
- 怒 = 低めの声で口をとがらす
- 哀 = 悲しみの表現、表情は抑えめにし、口は広げて開けない、泣く、泣きじゃくる、すすり泣く
- 楽 = 明るい声でやや早口に 喜と同じ
- ・喜怒哀楽と音階を使い分けても声色の幅が広がる。

【演じ方の基本「声」について】

会話

語りの上手な語り方

擬音

- ・セリフ(会話)によって登場人物の年齢、性別、性格、生活環境、心理状態が分かるようになってくるので、聴いている人がそれを理解するように演じる。
- ・セリフの演じ方は、誰が誰にどういう心境で言っているかで変わってくる。
- ・声色(声帯模写、物まね)は使わず、音階(ドレミファソラシド)、言葉尻、口の開け方、高低、緩急、強弱、明暗で、登場人物の声を使い分けすることができる。
- ・セリフでは声の喜怒哀楽に、「明暗高低」を付け加えると、8種類の声のバリエーションを作ることができる。
- ・「高低 強弱 緩急 明暗」を使うと多くの声色を使うことができるので、登場人物のセリフにより使い分けする。

- ・ナレーション(語る)も、場面に合った使い分けができるように。
- ・擬音を表現する際に太鼓などを使用すると、子ども達が道具に集中してしまうことがあるので、できるだけ、道具に頼らずに擬音は口で表現した方が良い。

【演じ方の基本『間』について】

- ・間の取り方は自分のキリの良いところで、一度切り、話を続ける。

息つぎの間

- ・場面の状況が変わるところで、息つぎをする。

話変わりましたの間

- ・場面転換や状況が変わる時に取る間。例えば、夜から朝への場面転換時に、3～4秒ほどの間を取る。

ドラマを生かす間の取り方

期待させる間の取り方

登場人物の気持ちになった間の取り方

【演じ方の基本『ぬく』について】

紙芝居の基本は真っすぐ平らに抜く。

途中まで抜いて止める。

サッと抜く、早く抜く。

緊張感がある場面や急いでいる場面で使用する。

ゆっくり抜く、静かに抜く、抜きながら話す。

余韻を残す時。

画面を動かす。

場面によって上下前後に紙芝居を揺らすと風に吹かれている様子や歩いている場面など臨場感を表現できる。

【紙芝居を演じる際の要点】

- ・物語の大筋を変えない限りは自分のやりやすいようにアレンジをして演じてみるのもよい。
- ・締めを楽しくする。何を守ってもらいたいかを覚えてもらうために歌を入れるなど、色々工夫する。
- ・開始(導入)時には子ども達の興味を引くために、お遊戯などを取り入れて興味を持ってもらうことも有効。疲れた時などにもよい。
- ・紙芝居は途中で止めない。最後まで演じてから話をまとめる時に約束事などを決めるとよい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

声をつぶさない日々のケアなどがありますか？

【回答】

私の場合は、腹式呼吸を心掛けております。背筋を伸ばして、下腹部に空気を吸い、思いっきり口から「フッフーフー」と吐く事を、家事の合間や気づいた時にやっています。発声は喉からではなく、お腹からを心掛けてみて下さい。

【質問】

具体的にどの様な教材があるか教えて下さい。また入手方法を教えてください

【回答】

交通安全の紙芝居としては、各警察署の交通課、交通安全の団体組織に、かつて交通安全母の会から配布したものが有るかもしれません。または、インターネットで交通安全の紙芝居を購入する方法も有ります。検索してみてください。

【質問】

高齢な交通安全指導員にも実施する必要がありますか？

【回答】

交通指導の一方法としての紙芝居の講義ですので、その方が、紙芝居を演じる事に興味を持って下されば良いのですが、そうでなければ講義内容をお伝えするだけで良いかと思えます。

【質問】

声色を変える必要はないとおっしゃっていましたが、自分の声で役を演じ分けるにあたり、その辺りのテクニックをもう少し詳しく教えて下さい。

【回答】

一番は、「ドレミファソラシド」の音階で、おじいさんやお父さんは最初のドから下の音階、ナレーションはミの辺りでお母さんや女性の声をファやソ、男の子女の子はラシド等で(高齢者は口を横に閉じ気味にして)そこに「明暗、高低、強弱、緩急」の声の出し方を加え、登場人物の性格、年齢を考えて演じ分けてみて下さい。あくまで参考ですから、自分の納得のいく方法で練習してみてください。

【質問】

声の出し方など紙芝居の話し方について教えて頂きありがとうございました。時々、盛り上がって話の途中で騒がしくなります。スムーズに紙芝居を行うのにいい方法はありますか？

【回答】

紙芝居の途中で騒がしくなるのは大変ですよ。若かりし頃の私の経験上、「静かにー！」とか大声で注意すると逆効果になった記憶があります。

そこで、紙芝居より少し前を出て、耳に聞く様に手を当てて、口にシーの指をして様子を見て、少し落ち着いたら、以前より声を大きめにして紙芝居を続ける方法は如何でしょうか。

やはり、幼児や低中学年の子どもの集中時間は、約15分と言われていいますので、紙芝居の実演時間を把握した上で、子どもを紙芝居に集中させる導入(拍手の手遊び等)と紙芝居の内容を後で聞くので、「一生懸命見てね！」などの約束を子どもにして貰う。終わったら紙芝居内容の質問と交通安全の約束を皆で声に出してもらい、起立してその場で左右の確認や、足踏みして貰い「とまれ」の合図で止まる練習等を紙芝居後のシメとして実施してみる方法は如何でしょうか。

【質問】

イッツアスモールワールドの替え歌は自治体で著作権使用の許可を取った方がよいのでしょうか。とても良い歌ですので、教室で取り入れたいと思うのですが。

【回答】

初めて頂いたご質問で著作権法を調べてみました。あまり深く考えずに皆さんにお教えしたのなら、申し訳ないと思いますが、この歌を交通安全の為に、交通教育の一貫として歌う分には問題が無いと思いき披露しました。これを映像化または録音して販売したり等、利権が絡まなければ大丈夫だと思いますが、ご心配の時は著作権に詳しい所に、聞いて調べてみては如何でしょうか？

事例発表「幼児・児童の交通安全について」 / 1月29日(火)12:50～13:20

山田 義秋

(沖縄県那覇市小禄支部交通指導員)



【現状の課題・問題点】

- ・立哨ポイントの交通量が多く危険。
- ・スクールゾーン委員会により、保護者の当番も決められているが、まだまだ不十分。
- ・朝の通学時には保護者の車での送り迎えによる渋滞も起こっている。
- ・平成30年5月より立哨ポイントの近くの工事現場の土木建築業者が立哨を手伝ってくれている。
- ・立哨ポイントに立つ人すべてが保険対応になるのが望ましい。
- ・民生委員児童委員(主任児童委員)、総務大臣委嘱の行政相談委員として、地域活動を平行して行っている。

保安灯(防犯灯)の設置

・冬場は夕方6時頃には暗くなり、大変危険。そこで、防犯灯の設置費用及び維持管理(電気料や保守メンテナンス)費用の10割補助の平成29年度「那覇市安全対策防犯灯緊急整備事業」を活用して、平成30年3月から金城小学校・中学校、かなぐすくこども園で合計33灯が順次設置された。

街路樹の剪定及び舗装タイルの補修要請

・金城小学校近くの交差点横にハウオウボクの葉が繁茂し信号が見づらくなったり、根により舗装タイルが浮き上がり転倒する人が多数いるため、補修工事を早めに要請。那覇市道路課に学校やPTAより補修要請をしていたがなかなか進まなかったため、行政相談員として担当管理監へ直接要請をした。

講義「幼児・学童の発達と交通安全学習について」 / 1月29日(火) 13:30 ~ 14:30

山口 直範

(大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 教授)



1 はじめに

幼児・学童の発達と交通安全学習について。

・臨床発達心理学... 交通事故はこころともつながっている。

2 子どもの不慮の事故死の原因で最も多いのは交通事故

・圧倒的に7歳の子どもの歩行中の事故死が多い。(特に男子)

・登下校中の事故が約4割。

・子どもの発達と生態学的アプローチ... システムの移行する不安定な時期のため。生態学的には、就学に伴う通学が作り出す、活動システム全体の変化と考える。

一人の交通参加者としての自立に伴う行動範囲の拡大。

心理的な機能の発達とマッチングが不十分。

3 子どもはなぜ道路に飛び出すのか(発達心理学の視点から考えよう)

・子どもの交通事故は飛び出しが最も多い。... 当然に大人と比べてあらゆる面で未発達なので。

子どもには見えていない... 背が低い、腕力・脚力が弱い、視野が狭い、等で転びやすい。

アイコンタクトが重要。

まだ他者理解ができていない... 「自己 中心性」

相手の立場から物事を見ることができない。自分で状況を把握できない。

子どもは感情コントロールが苦手... 情動の発達。(感情の抑制が苦手)心の理論を獲得した後も飛び出しをしてしまったりする。また、大人を安全地帯として使うかもしれない。

意味も分からず注意するのではなく行動の範囲にどのような特性を持っているかを、大人が理解すること。

4 心理学を活用した教育技法(子どもの命を守り続けるために)

目先の安全にとらわれない本当の交通教育... 「危険感受性」を 磨く。

危ない目に遭う前に予測して避けることのできる技術を身につける。

「最近接発達領域... サポートがあってできる領域と自分で出来る領域がある。

危険との距離感をつかみ、危険を学ぶ機会をつくるのが大切。

能動的な交通安全学習... 他者を 頼りきった学習だと警戒心が乏しくなる。

ピグマリオン効果(期待された成果を出す)... 「やらされている」行動は避ける。

5 自転車運転のための交通安全学習

・小学校中学年以降は自転車事故が増加する。

交通安全教育などで能動的に交通安全を教える。実践的なことを学ばせる。

被害者教育と加害者教育

生態学的妥当性... 楽しく学んで習慣をつける

交通安全教育教の難易度を上げてゲーム感覚で興味を持つような指導などを工夫する。

人間の行動... 人間の行動は環境と特性によって決まる。

大人が子どもたちの前でモデルになるような行動をしめさなければならない。負のモデリング(信号無視など)をさせないようにすること。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

参考文献、著書がありましたら、教えてください。

【回答】

講演内容に関する文献を3つ紹介します。3)はダウンロード可能です。

- 1)大谷 亮・金光義弘・谷口俊治・向井希宏・小川和久・山口直範 (2016).子どものための交通安全教育入門 心理学からのアプローチ ナカニシヤ出版
- 2) 蓮花一己 向井希宏 2012 交通心理学 NHK 出版
- 3) 交通事故総合分析センター 2016 ITARDA INFORMATION 交通事故分析レポート No.116 特集 子どもの歩行中の事故

【質問】

小学生の自転車教室で日頃乗っている自転車を使うことが難しい(学校の行き帰りで自転車に乗ることが危険なため)のですが、いい方法はありますか？

【回答】

私が休日に実施した時は校長と PTA にご理解していただき、親子で自転車通学してもらいました。最初は「学校に自転車なんて危ない」、「事故したらどうする」などの意見がありました。しかし、子どもたちは帰宅後に学校周辺を自転車で走り回っています。私は「遊びに出掛けるため自転車に乗るのは許可して、交通安全のために乗るのは危ないっておかしくないですか」と問いかけた結果、納得していただきました。任意参加でしたが親子で学ぶことができました。

【質問】

7 歳児の交通安全対策(安全教育)は何才からすれば良いのか。小学生の自転車教育は何才からすれば良いのか、自転車の乗り方教室開催時期はいつごろが最適なのか。

【回答】

7 歳児の歩行中事故のためには就学前に親子で道路横断方法を学ぶのがいいと思います。また、1 回の教育ではイベントになってしまいかねません。習慣化するには養育者に正しい交通参加方法を教え、日頃から子どもと一緒に実践することが重要です。

小学生に自転車の教育を実施するなら 1,2 年生から始めて発達に応じて内容を変えていくのがいいと思います。一般的には事故が増える 3 年生時に実施されていますが、就学前に 6 割の子どもが自転車に乗っていると報告されています。道路の横断方法や自転車の正しい乗り方は必要な時になって学ぶのではなく、必要な時には身につけていることが大切です。

【質問】

子どもの特性、心理などよく分かりました。講義内容が分かりやすく、今後の指導に役立てようと思います。実際に子どもにカメラをつけたビデオはよく分かりました。自転車教育の方法について詳しい講義がしてほしい。

【回答】

自転車の教育は低・中・高学年で内容を変えるべきだと思います。低学年ではブレーキなどの正しい操作と自宅周辺の危険箇所、中学年では活動範囲が広がるため道路標識の意味や交通ルールと危険予測、高学年では自分が加害者にもなることの教育や中学生になると通行方法が変わることなどです。その際に行動だけではなく「なぜ停止するのか」など行動の意味を学ぶことが重要です。知識を教示するだけではなく、自分で考える領域を残しておくことにより、学習効果が上がると思います。

【質問】

レジュメ中のデータ等(親に注意、喚起の為)を使用させていただいてもよろしいでしょうか？

【回答】

レジュメ内の図1は ITARDA のデータであるため上記の質問 No.1 の 3)でダウンロードできます。こちらから引用してください。その他の内容につきましては、ぜひ交通安全にお役立て下さい。出典が示されているものはご記載いただければありがたいです。

【質問】

子どもに対するブレーキ指導の効果的な方法があれば、ご指導頂ければと存じます。左手を掛けて、右手をかける。両手で一緒にかける。 幼児に左ブレーキを先にかけるというのを教えるのは早過ぎますでしょうか。

【回答】

おそらく停車状態での練習から始めていらっしゃると思いますが、幼児に左ブレーキを少し早く握ることは難しいですね。それよりもレバーのどの辺りを握るのかを徹底してみたいかがでしょうか。子どもの握力でレバーの内側を握っていると十分な制動力は得られません。外側を握るとブレーキが良く効くことを体験学習することをお勧めします。

講義「交通安全教育デモンストレーション」 / 1月29日(火) 14:40 ~ 15:20

(警視庁交通部交通総務課交通安全教育係)



デモンストレーション

1) 導入

- ・交通安全の話をする前に、手遊びや歌などの導入で興味を惹きつけ、話を聞いてもらう雰囲気や体感を作る。
- ・飽き始めた時に、場の空気を変えるのにも有効である。手や足、指を使うことで、認知・判断・行動の説明に繋げることもできる。

2) 交通安全の手法

安全教育は、対象に応じて適切な手法を選ぶことで効果的に行うことができる。

- ・着ぐるみ...イベント、大きな舞台の公演向き。
- ・腹話術...皆が知っている童話などを組み合わせた話もあり。
- ・からくりボックス...交通安全のポイントの説明が分かりやすい。色々なパターンの指導ができる。
- ・パワーポイント(資料)の映像に着ぐるみや仮装を合わせた指導...子ども・老人等、全対象向き。

など

○ その他

・交通安全教育係の活動

都内各所で交通安全教室を実施。警視庁女性白バイ隊「クイーンスターズ」として、箱根駅伝、東京マラソンの先導、二輪車実技教室なども担当。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

パワーポイントを使った教室は、映像を見ながらとても分かりやすかったです。しかし、私たちの交通安全の活動は4人の職員で、2人1組になり、毎日、交通安全教室をこなすことで一杯なので、パワーポイントをつくるのが難しいとの話も出ております。そのようなパワーポイントは共有することはできないでしょうか。

【回答】

使用したパワーポイントが部内のものなので共有することはできませんが、道路の写真を取り込み、簡単なアニメーション機能を使用しただけなので、アイデア次第で短時間で作成できます。

【質問】

腹話術の教室を探しましたが、どこもなく警察官をしていたときの先輩が現職で腹話術をされていましたが、現在も在職中の為、時間がとれません。教習用のビデオなどあれば、貸して頂きたいです。腹話術用人形は私の勤務する安全協会にあります。実際、使われておりません。

【回答】

腹話術については、「腹話術人形の基本」の資料がありますので、差し上げることは出来ます。あとは、何度も練習することが上達の秘訣です。台本を作成する際は、セリフを短く、テンポのよい会話を意識すると軽快な台本になります。

【質問】

ウッキー君、やっくん、可愛らしくて、子どもさんはきっと喜んで夢中で見ると思います。自分以外の役になって伝えるためのコツ、訓練など、心掛けてる事があれば教えて下さい。

【回答】

演じる時は、人形のキャラクターを自分の中で確立してから演じるとしっかりしたストーリー展開ができると思います。

【質問】

森のくまさんの替え歌に続きがあるなら、歌詞が知りたいです。

【回答】

歌詞は、普段安全教育をしている言葉や内容から作っています。

(ららら ら～ら～ら～ら～ ららら ら～ら～ら～ら～) 伴奏

共通メロディ

それでは (それでは) お話の (さっきの?)

復習を (復習を) いたしましょう (覚える?)

みんなで覚えて～楽しく歌いましょう～

信号機のある横断歩道の渡り方バージョン

信号（信号） 渡るとき（渡るとき）

右左（右左） 右を見て（右を見て）

横断歩道を正しく渡りましょう～

アイコンタクトバージョン

右から（曲がって） 左から（曲がって）

トラックが（トラックが） やってくる（やってくる）

安全確認 目と目でごあいさつ

アウトロ

（ルールを守って）元気にすごしましょう

ららら ら～ら～ら～ら～ ららら ら～ら～ら～ら～

（らん ）

【質問】

ピーポーくんの中に入る人は決まった人ですか？ 中身がしゃべるので... どうしているのかな... 。

【回答】

係員は誰でも着ぐるみに入ります。ピンマイクを口元にセットしています。

講義「いきいき運転講座」 / 1月29日(火) 15:30 ~ 17:00

池田 佳代(株式会社コンセプトン 代表取締役)



配布資料:

- ・「いきいき運転講座」講義資料
- ・DVD「いきいき運転講座」お試しセット
- ・「いきいき運転講座」へのご意見をお聞かせください(アンケート)

【「いきいき運転講座」の考え方と特徴】

「いきいき運転講座」とは

- ・脳を元気にし、ワイワイ話し合いながら交通安全力を高めることを目的としている。
- ・交通事故全体は減っているが高齢ドライバーの事故比率が増えている。一方で、運転を望む高齢者がたくさんいる。
- ・この講座は運転を必要とする高齢ドライバーに、健康で安全に運転を続けていただくために作ったプログラムである。
- ・交通安全、心理学、脳科学などの専門家でチームを作り、開発を行った。

受講者数は2008年8月より約23万人にのぼり、90%の交通安全担当者から、受講者の反応が良かったという回答があった。

受講者からは「楽しく勉強できるから身につく」「楽しくて時間がたつのが速い」などの声があり、交通安全担当者の方からは「皆に考えさせ、発表させる教室は新鮮でよい」「話し合いを通して、高齢者の意識が変わってくる」「対話しながら問題点に気づかせるこれまでにない講座」という声があった。

警察庁「高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議」において、交通安全教育として大変評価された。

「いきいき運転講座」の考え方

コミュニケーション力を高めながら、「いきいき度をアップ」する(元気度を上げる)

監修者の鈴木春男先生(千葉大学名誉教授)や川島隆太先生(東北大学教授)によると、身近に何でも話し合える友人がいる人、活発に活動する方ほど脳機能の衰えが少なく、安全意识も高いため事故やヒヤリ体験が少ないと言われている。

気づきを通して「交通安全力をアップ」させる

「いきいき運転講座」では上から教え込むのではなく、自分で考え、気づきの学習を目指し、交通安全力アップを図る。コーチング、ミラーリングといった教育手法を取り入れている。

「いきいき運転講座」の特徴

特徴1:小グループ学習などを通してよい仲間づくりをする

～よい仲間がいる人、活動的な暮らしをする人ほど安全意識が高い

特徴2:話し合いを中心に進める

～意見を出し合って、問題点を自分たちで解決することで行動を変化させる

特徴3:脳機能を高めながら交通安全を学習できる

～交通脳トレや話し合いで脳機能アップを図る

特徴4:免許がない方も参加できる

～ドライバー、助手席、歩行者、自転車等のそれぞれの立場で話し合いをする。お互いの意見を出せるので、地域の交通事故を減らし、交通安全活動にも役立つ

例)高齡ドライバーの特徴、事故時の違反について。

65歳以上の高齡ドライバーで多いのが「出会い頭事故」(約30%)である。信号機のない交差点でよく起きている。

高齡ドライバーを対象に実験を行った。「一時停止標識と停止線のある信号機のない交差点」の安全な通過方法を聞き、その後、車に乗ってもらい通過方法を観察した。

約80%の方々は「停止線で止まり、安全確認してから徐々に道に出る」と正しく答えた。しかし、実際に車に乗った時に停止線で止まった方は約15%だった。

安全に通過する知識はあるが、正しく行動することができないということだ。知識と運転行動のギャップを埋めるには、問題点を単に伝えるだけでなく、問題点を気づかせることがポイント。そのために話し合いや問題行動のビデオ観察が重要になる。

【「いきいき運転講座」の構成】

「交通脳トレ」と「交通安全トレーニング」を組み合わせで行う。

指導者用資料には「台本」が入っている。あいさつから説明まで、そのまま読み上げるだけで、初めての方でも講座を進めることができる。



意見を述べ、班長が班の意見としてまとめる)
交通脳トレ

+



交通安全トレーニング「自分の運転を振り返る」

【「いきいき運転講座」体験】

1. 「いきいき運転講座」の流れ

あいさつ

導入

- ・4～8人一組のグループを作り、班長を決める(班長は話し合いの進行と数字、意見をまとめる係)。
- ・グループ内で自己紹介(名前、地域、趣味など) よい雰囲気づくりができる。
- ・班長が面白いエピソードの人をまとめて発表
「交通脳トレ」
- ・脳の機能を高める「交通脳トレ」1日分、2問を実施。

「交通安全トレーニング」

- ・ワークシートを活用し、グループで話し合う。(班長は最後に話をする)
- ・ワークシートの質問は5つから8つくらいで、答える中で解決策が見つかるように組み立てられている。自分の経験などを交えて話をする共感・発見をしやすい。
- ・グループごとに気づく内容が違うので、一問ごとにグループ内でまとめた結果や意見を班長が発表し合うことで知識が広がる。

(1) 運転の自己評価

四輪車に乗って、一時停止標識と停止線のある細い道から2車線道路に出る際に、きちんと止まって、安全確認をしているか、普段の運転を振り返って、100点満点で自己評価する。

(2) 安全な通過方法を話し合い

どのようにすれば安全に通過できるかグループで話し合う。(班ごとに、一人一言ずつ意見を述べ、班長が班の意見としてまとめる)

(3) ビデオを見る

実際に停止線で止まった車の数を数える。

(4) ビデオの感想

ビデオを見てどう思ったか、どんな感想を持ったかを話し合う。(自動車、自転車、歩行者等のお互いの立場等でも行う)

(5) ビデオの解説編を見る

なぜドライバーは脇道から通りに入る際に一時停止をしないのか話し合う。

(6) もう一度、運転の自己評価

100点満点で運転の自己評価を再度行う。映像を見たり、話し合いを行った後、自己評価に変化があったかどうか確認する。

2. 進め方のポイント

(1) 普段の運転を振り返り、講座の前後に100点満点で自己評価

グループの話し合いやビデオ観察により、自分の問題点への気づきを促すことができる。前後での点数の変化について考えることで、短時間に教育効果ははかれる。点数が下がった人、自分の運転を反省

(2) いきなりビデオを見せない

ビデオを見せる前に正しい通過方法を確認する。それによって、ビデオの中の車の動きがいかに不安全であるかがよくわかる。

(3) ビデオで人の振りを見て、我が振り直す

ビデオで問題行動を見ることで、自分の問題点をつかむことができる。

(4) 違う意見、共感する意見の中から学ぶことができる

異なった意見を聞くことで気づかなかったことを発見し、共通する意見からは励ましを得る。互いの意見を尊重することが重要である。

【「いきいき運転講座」のその他のプログラム】

「いきいき運転講座」には、他に「いきいき運転・いきいき生活」「危険予知トレーニング」「ヒヤリ体験を生かす」の3種の交通安全トレーニングがあり、「交通脳トレ」と組み合わせて実施できる。

【「いきいき運転講座」の話し合いの効果】

- ・自分の意見を言い、人の意見を聞く中で学び合い、「気づき」や「発見」がある。
- ・みんなで意見を出し合うことで指導者が教えたいと思う答えは必ず出て来る。みんなの意見を合わせると正解に近づいていく。足りない場合のみ指導者が意見を補う。
- ・正解を指導者が言うのは簡単だが身につかない。自分で話すこと、人から聞くことで気がつくことがたくさんある。また、グループごとの意見を聞いて新しい発見もある。
- ・自分で出した意見は忘れにくい。自分が見つけた答えは実行しようとする。

【活用状況】

- ・体験的な講座は人気がある。
- ・教材は自治体・警察が中心に使用している。
- ・交通安全トレーニングでは「自分の運転を振り返る」が一番使われている。
- ・地域の高齢者対象の交通安全教室のほか、交通安全大学・市民講座(連続講座)、企業の社員教育、小学校・中学校でも活用されている。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

高齢者でなくとも楽しみながら、学習し、気づきを得る事ができました。より多くの方に参加してもらえ
るような良い周知方法がありましたら、教えて下さい。

【回答】

「いきいき運転講座」を実施し、多くの参加者を得た警察、自治体、団体の意見を紹介させていただきます。

1. 参加者呼びかけのパワーアップを図る

- ・地域の代表者の呼びかけだと、参加者が集まりやすい。代表者(老人クラブ・町内会などの会長、民生委員など)が集まる会議で講座の概要を説明し、責任をもって直接参加呼びかけをしてもらう
- ・警察・交通安全協会・自治体・福祉協議会などの担当部署、老人クラブ、会場となる場所など、できるだけ多くの組織とタイアップし、参加者募集のルートを増やす
- ・効果的な PR 媒体を活用する(警察、自治体の広報誌や HP を活用)

2. 開催方法を工夫する

- ・高齢者を集めるのではなく、高齢者がいるところにお邪魔して開く
 - ～ 高齢者のサロンを会場に
 - ～ 高齢者対象(健康教室や防犯教室、スポーツイベントなど)の行事の中に、交通安全の教室を組み込んでもらう

グループ討議結果発表 / 1月30日(水)9:20 ~ 10:20

「高齢者の交通安全」Aグループ

【現状の課題・問題点】

1 高齢者に対する交通安全教室

- 老人会などに所属しない高齢者に対する安全教育。
- ・交通安全教室を開いても参加者がなかなか集まらない。集まるのは老人会など特定の方が多い。
- ・参加者の記憶に残るような講習会にするにはどうしたらよいか？
- ・団体に所属している人や、特定の人しか参加しないのではないか？
- ・家族で参加型なのに一人で参加しなければならなくなった人などはどうするのか？

2 反射材の着用

- 配布しても着用しない人が多い。(反射材の普及促進)
- 実際に着用してくれないのではないか？

【課題・問題への対策案】

1 参加者の集め方

- 関係機関に呼び掛けて参加者を募る
 - 老人会のグランドゴルフ、母の会に呼び掛けての公民会など
- 小学校、幼稚園等で実施する教室に家族を含めて参加してもらう
 - 祖父母参観などで家族を巻き込んで
- ・関係機関に呼びかけて参加者を募る
- ・公民館や高齢者サロンなどで関係機関を通して参加者を呼びかける。
- ・幼稚園・小学校等で実施する教室に家族で参加してもらう。

2 伝え方・内容

- 参加・体験型の講習会が有効である。
 - 高齢者を集めて「交通大学」を実施し、高齢者が自動車学校の教官から実車指導を受ける等参加体験型の講習会を行う。
- パワーポイント・映像等を活用する。
 - ・実際に撮影した映像を講習会で見てもらう。
 - ・パワーポイント(映像)などを利用すると効果的になる。
- 寸劇、漫才などで遊びを加えた講習会にする。
 - ・寸劇や漫才などを招いて楽しく学べる講習会にする。

○反射材の着用について

- 1 配布する際に、バックなどに直接取り付けて配布する
 - ・その場で鞆などにつけてもらう。

2 反射材ゴーグルライト等で反射材の効果を体験させる。

・実際に着用して体験してもらう。

3 指導する側が着用して、着用の仕方等を見せる。

・指導員が実際に身につけて指導を行う。

【対策案を実施する上での問題点など】

・団体に所属している人しか参加しない。

・新しい人が入りづらい。

・独居高齢者に対する対策が必要。

・ワンパターンになりがちで、受ける側が数回受けると飽きてしまう。

・資金、人材の調達が難しい場合がある。

～自治体を実施している DVD の貸し出し等もあるがそれを周知する方法も課題

・体験型講習等では、機材の準備に手間が必要な場合がある。

・体験型講習の場合は、離島等そもそも機材がない場所もある。

「高齢者の交通安全」Bグループ

【現状の課題・問題点】

反射材の利用促進。

- ・高齢者に反射材を渡してもしまい込んで付けてくれない。
- 交通安全指導教室の周知機会の確保。

【課題・問題への対策案】

反射材の利用・促進の対策案

高齢者に反射材を渡してもしまい込んで付けてくれないことが多い。

- ・講習会で実際に使用してもらい、効果を実際に体験してもらう。
- ・交通安全の面だけでなく災害時にも発見してもらいやすいことなど、プラスアルファの面も伝達する。
- ・配布場所の工夫... 病院などを訪問し、患者さんにシール等をその場で貼ってもらう。(反射素材)
- ・イベントなどで配布し、持ち帰らずにシールをその場で貼付したり、反射材を鞆に取り付けるなど、指導員がその場で直接身につけさせてもらう。
- ・病院を訪問し患者の靴にその場でシールを貼付。(反射素材)

交通安全指導教室の周知確保の機会の対策案

- ・広報(広報の中に情報をのせてもらう)・HP(交通教室が終わった後でHPに載せる)・回覧板で周知。
- ・町内会単位で警察官を交えた懇親会を開催し周知を求める。
- ・スポーツ振興会、スポーツ大会の場に指導員が出向き、簡易な交通安全講習を行う。
- ・案内を直接自宅のポストへ投函するなど、自宅を訪問し周知。
- ・講習会のチラシを作成して新聞の折り込みに入れる。
- ・シニアクラブでチラシを配布、会長会などでも呼びかけを行う。
- ・啓発品の配布と交通安全教室開催の呼びかけ。

【対策案を実施する上での問題点など】

- ・反射材の問題点... 雪で視界が悪いと反射材が見えない。

自発光式反射材の使用(ライトが点滅)や、交通安全協会等に視認性の高い物(全面に反射素材を使用したジャンパー等)を発注する。

- ・自宅を訪問する際の問題点... 不審者に 思われる可能性がある。
時間帯、天候を考慮し訪問。(見通しの良い時間帯、天候)

人と人とのつながりが大切。一つの講座、一つのPRで終わりにするのではなくて今後も交通安全が続いていくようにする。

「自転車の交通安全」Aグループ

【現状の課題・問題点】

- ・ルールを知らない人が多い、分かっているけど守っていない。
- ・高校生はルールができあがっている。
 - ・中高生がヘルメットを被っていない人が多い。
- ・TSマークはどのような意味なのか？
- ・自転車に乗る人が保険の加入をしていない。
 - ・保険の周知徹底。
- ・保護者がルールを知らない、守っていない。学校の先生も交通ルールを知らない。
 - ・教える立場なのに、教えられていない。安全教育を行う場所が整っていない。

【課題・問題への対策案】

- (1) 自転車ルールを知らない(守らない)人のため交通ルールの伝え方の対策。
 - ・市民自ら参加して自転車専用道路の塗り替えを行い市民の自転車の交通安全意識を高めるイベントの実施。(松本市)
 - ・多くの自治体で地区ごとに講習会を実施。「いきなりはっと大会」を共有し、交通安全意識を高める。
 - ・防犯協会と連携し、特殊詐欺犯罪被害防止と高齢者の交通事故防止の広報を合わせて実施している。(仙台市)
 - ・高松市は小4から自転車教室を開催。
 - ・街頭活動、講演会などを開く。
- (2) ヘルメットをかぶることの大切さの対策。
 - ・身を守るためにはヘルメットの着用が重要。
 - ・ヘルメットを使用することを条件として自転車通学を認める学校も増えてきているが、通学時にかぶっても通常時にはかぶらない場合が多い。様々なタイプのヘルメットの種類のご案内。
 - ・幼児期からの意識付けが大切
 - ・映像などでヘルメットの大切さを伝える。
 - ・自転車大会への参加を促進する。
- (3) 自転車保険に入ることの大切さの対策。
 - ・事故時の損害賠償金額の例をあげて、保険に入ることの重要性を伝える。
 - ・自転車損害賠償保険の加入義務化が全国でも進んでいる。
 - ・自転車交通事故の再現映像などを流すことで視覚に訴え加入を促す。
 - ・学校や地域との連携。

【対策案を実施する上での問題点など】

- ・地域活動等は天候の問題、行政との調整が必要。
- ・講習会を開催するタイミング。(年一回だと忘れてしまう)

- ・講習会や交通安全イベントへ参加しない人への周知の方法。
- ・働く親が多いため、クラブに参加できない。
- ・大人が交通ルールを守らない。
- ・自転車教室を開催後、その場は理解するけど、その後は続かない。
- ・一度伝えただけでは忘れてしまうので、継続的に伝えていきたいが、なかなか機会がない。
- ・保険加入が自治体等で義務化されていても知らない人が多いので呼びかけが必要。

一期一会を大切に、し自転車利用者の心に残る指導を心掛け、日々の情報収集を怠らず自転車利用者に対し、安全利用の働きかけを行わなくてはならない。

「自転車交通安全」Bグループ

【現状の課題・問題点】

ルールを守らない人へのルールの徹底。

小学生

・3～4年生を中心に交通安全教室を実施

1回の指導で身につけているのか？

・13才未満の子どもが自転車に乗る際には、保護責任者にはヘルメットを子どもに着用させる努力義務があるが実際に徹底されているのか？

中学生・高校生

・自転車教室を実施。

・通学で自転車を利用する年代になる。

中学生...実際に 自転車教室を実施しているところでも乗り方が良くない。

高校生...ヘルメット使用している人はほとんどいない。

高校生以上・一般

・教室を実施しているところがない。

マナーの悪さなど、ルールの周知はどうするのか？

保護者への交通安全教育は？

～ の共通の問題点

・全世代に向けてのヘルメットの着用。

・自転車保険への加入。

・ルールを学ばせる場所とは？

自転車運転者講習制度などルールを学ぶ場所の確保。

【課題・問題への対策案】

ルールの徹底

・何度も声かけをする。

・年の近い人から声をかける。

部活単位や大学のボランティア、サークルなど。

小学生...保護者・学校からの教育

交通安全教室で覚えたことを先生や保護者が継続して教育することが大切。

・ヘルメット着用のため、小学校入学時に支給。

・ヘルメット着用の義務化

中学生・高校生... ヘルメット、雨合羽の所有率を学校に依頼してアンケートを取る。各学校で着用率を認識させる。学校ごとに比較することで競争心をあおり効果を上げる。

高校生以上

・交通教室だけでなく、診断やイベントなど人が集まる場所へ出向き、広報・啓発をしていく。

・子どもに教えるために、保護者・教職員への安全教育。

【対策案を実施する上での問題点など】

・指導者・教育者の高齢化、人手不足。

ルールを知らずながら違反している場合と、知らずに違反している場合がある。どちらも見逃さず声をかけ続けることが大切。警察・行政・地域・家庭での教育が必要である。

「幼児・児童の交通安全」Aグループ

【現状の課題・問題点】

- ・子どもと身近に接している家族や先生方との連携や協力が必要だが、連携できていない。周りの方を巻き込んでの交通安全教育方法があれば教えてほしい。
 - ・教材づくりや教室内容について、他県などとの意見交換などができると、内容が広がるが、そういった機会が少ない。
 - ・子どもはルールを守っているが、大人は守っていない。
- 実際に道路に立っていると、大人が交通ルールを無視し、それを子どもが真似する。大人への意識づけが必要であるが難しい。
- ・身内だけのアイデアでは、限界がある。教材作りが難しい。
 - ・幼稚園での教材や啓発品作り、指導や話術が難しい。
 - ・内輪差など子どもの理解しづらいことをどのように指導するのか。
 - ・小学校高学年の体を動かしながらの教室が難しい。
 - ・特に自転車のルールが守られておらず、危険である。

以上より、(1)幼児や児童に対する教育方法(2)保護者とのネットワークづくりについて対策を考える。

【課題・問題への対策案】

(1) 幼児や児童に対する教育方法について

- ・プリントを配布して予習してもらおう。前もって、学校へ配布して覚えてきてもらおう。歌いながら覚えてもらおう。先生や子どもにしっかり、覚えてもらうことがポイントである。自転車の指導に関しては先生方にも参加してもらおうように仕向ける。実際に先生に自転車教室も指導してもらおう。
 - ・信号の赤、青、黄の旗を指導員が出してのゲーム紹介なら、体を動かしながら、覚えて、楽しめる。
 - ・チャイルドシート活用(新潟)youtube における「ベルトかっちゃん体操」を見てもらう。
 - ・信号のとびだし防止(市原)
- 「と(とまる)、み(みる)、き(きく)、ま(まつ)」で教育している。
- ・自転車の指導に関して、前もってプリントを配布し宿題にする。

(2) 保護者とのネットワークづくりについて

- ・遊戯会などで指導の時間を設け、講話をしている。
- ・小学校の父兄参観の時に、子どもと保護者との交通安全教室を実施したり、交通見守り時の旗の出し方や自身の安全指導を話している。
- ・交通事故の被害者や加害者の立場に立てるような状況をつくる。例えば、感情を込めた「つぐない」の朗読で訴えかけるのは効果的である。
- ・交通教室実施の写真付きお便り(広報誌)を発行すると、保護者も目を通してくれる。(対馬)
- ・予算が限られる場合は、学校に広報誌を配布して、掲示板に貼ってもらい、保護者が来校したときに見てもらえばよいのではないか。
- ・幼稚園、保育園のお迎え時に交通教室をして参加せざるを得ないようにする。

- ・実際の道路や通学路を歩行指導、ボランティア、防犯などの団体により反復指導する。内輪差や左折巻き込みなどもその際に指導する。
- ・各自治体と情報交換をすることにより、幼児がどのようなイメージを持ちやすいのかを参考にする。
動作、視覚でわかりやすく実演をする、など。

【対策案を実施する上での問題点など】

(1) 幼児や児童に対する教育方法について

(2) 保護者とのネットワークづくりについて

- ・保護者が参加する交通教室自体が少ないため、指導する機会が少ない。
- ・仕事があり、教室などの参加が難しい。

幼児・児童の交通安全」Bグループ

【現状の課題・問題点】

1. 子どものシートベルト着用、チャイルドシート使用の不備による人身事故が発生しているものの、保護者の協力・参加が難しい。
すべての活動において保護者への指導の機会がない。どのように対策をしているのか？
2. 指導で公道を歩かせたいが、通学路では交通量が多く安全の確保の観点から賛否両論となってしまう。
3. 子どもが話を聞くときに、集中して聞き続けることが難しい。
途中であきてしまう。

【課題・問題への対策案】

1. 保護者への指導の機会... 卒園式や入学式、給食参観など、園・学校での行事に合わせて、保護者または親子に対する交通安全教室を実施させてもらう。
2. 通学路での指導... 公道での指導はできなくても通学路ではボランティア等が見守っている。先生に協力してもらい、細かい指導で安全を確保する。
3. 子どもが指導に興味を持つために... 年齢に合わせた内容・時間で実施する。ゲーム・手遊び・人形・腹話術等、様々な方法を使って、興味を引く。方法については、今回のような機会を活用して取り入れる。

【対策案を実施する上での問題点など】

園・学校の協力が必要。

公道での指導は、通学路の見守りがいない時に子どもだけで歩くこともあるため、危険。

先生の協力は、人員が確保できないなど、学校によって差が出てくる。

指導者の経験熟練度によって子どもの興味に差が出てしまう。

子どもは教えてもらったことを守ろうとする。大人が子どもの手本となるように努めることが課題。

「幼児・児童の交通安全」Cグループ

地域全体の交通安全についての意識改革。

子どもの意識改革

・子どもには早い段階で交通の大切さを教え、自身で考えることが必要である。

保護者の意識改革

・シートベルトを着けないなど保護者の交通安全意識が低い。

【現状の課題・問題点】

子どもへの交通安全教育の大切さ

・子ども自身が自分で判断できるようになるにはどうしたらいいか。

・室内での交通安全訓練について。

・シートベルトなどの認識について 親がつけてくれない。

大人への交通安全の認識について

・親の交通安全に対する認識が低い。

【課題・問題への対策案】

子どもに対して...子どもの意識改革の対策。

・交通公園でダミー人形を使用した交通安全教室を行う。

・学校の校長先生に協力していただく。

・先生が出勤時に通学路を通って見守っていただく。

・交通安全教室の時、高学年と低学年をペアとして、年上の子には責任感を、年下の子には高学年を手本とする意識を持つよう指導する。

保護者に対して...保護者の意識改革の対策。

・PTA 主催で交通安全教室を開く。

・地域主催のイベント(まつり)などに交通安全教室を設け、親子で参加できるようにする。

・土日休日参加型の交通安全教室を実施する。

【対策案を実施する上での問題点など】

実施回数の不足。

・年間行事に組みこむ機会がない... 実際には学校が交通安全教室をカリキュラムに入れたり、働いている保護者が交通安全教室に参加するのは難しい。子どもの登下校時の見守りも減少している。現状として意識改革を作る機会が減少しているのではないか？

年間行事に加えるのは難しい。実際はスケジュールが合わず難しい。

意識改革の機会を作るにはどうしたらよいかを課題にして、地域全体での意識改革をしていく必要がある。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答・感想 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

幼児 B・C へ

「学校、PTA に協力を依頼する」とあるが、先生方が多忙で協力を得るのは難しいと思われるが、実際に取り組ませるためにはどうしたらよいのか？

【回答】

幼児 C) 確かに実際学校のカリキュラム上に取り入れてもらうのは難しい。ただ案としてはまだ実施はしていないが、学校の先生方が通勤時に自転車で児童の通学路を見守るのはどうかという意見も出ている。

【質問】

山口先生の講義での「子どもは教えるだけでなく、考えさせることによって能力が発揮させられる。」とのお話をテーマに議論をされた方がいましたら教えて下さい。

【回答】

幼児 B) 静岡の学校の例。幼児ならグループで、低学年は3～4人、高学年は一人で列を作るなど、段階を踏んで定期的に指導する。定期的に企画書を作って学校に提出し、協力してもらう。

【質問】

高齢者 B へ

反射材を取り付けてもらうために、反射材の形状・取付け方について、詳しく教えて下さい。

【回答】

・反射材の取付け

講習時... 最初に当日配る反射材を紹介する。その後講習前に「貼らせていただいていいですか？」と許可をとってから、もう一人の係員が講習中に下駄箱などにある靴に直接貼っていく。

夜のスーパーなどでの配布時... チラシと反射材を配布。まずチラシで説明後、「反射材がありますが貼ってよいですか？」と許可をとって貼る。

・反射材の種類(形状等)

種類は貼るタイプやキャップタイプなど多数ある。各地区支部で違う。各地区支部指導員が考えて発注をかけている。

講義「自転車の交通安全教育について」 / 1月30日(水) 10:30 ~ 11:30

石井 征之

(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹)



配付資料:「自転車の交通安全教育について」

教員の意識改革

反射材の効果を認識させる

納得させることが大切。理解させることがポイント。

1. 交通事故・自転車事故の現状

平成 30 年中の交通事故死者数は 3,532 人で、前年度より減少はしているがまだまだ多い。高齢者の歩行中の事故死者数がものすごく多い。

2. 近年の自転車安全対策の取り組み

(1) 第 10 次交通安全基本計画

- ・日本は 1. 道路交通、2. 海上交通、3. 航空交通の 3 本の柱を中心にして五か年計画を立て、50 年目に入っている。あらゆる行政、都道府県が五か年計画の数値目標に向かって頑張っている。
- ・第 10 次交通安全基本計画の道路交通における数値目標は、平成 32 年までに 24 時間死者数を 2500 人以下とすることであるが、同計画が発表された平成 28 年の前年には、4117 人の交通事故死者がいた。現在、非常に高いハードルに向かって、あらゆる方面で努力がなされている。

(2) 自転車安全利用五則

- ・平成 19 年 7 月に自転車安全利用五則に関する通達が出た。平成 20 年 6 月に罰則や細則をつけた改正道路交通法が施行された。

(3) 路側帯におけるルール

路側帯...歩道がない道路の部分の白い線の内側

- ・平成 25 年 12 月施行の改正道路交通法により、それまで路側帯の相互通行が可能だったのが、左側部分に設けられた路側帯に限って自転車が通行できることとなった。 罰則有り

(4) 自転車運転者講習制度について

- ・平成 27 年 6 月施行の改正道路交通法により、14 歳以上であれば中・高校生も講習制度の対象となった。中・高校生やその保護者に話す場合には、自転車の危険行為 14 類型違反は 14 歳以上が対象となることを是非伝えてほしい。

(5) 最近の自転車の安全利用に関する情報: ヘルメット

- ・愛媛県はすべての県立高校の自転車通学の生徒にヘルメット着用を義務化した。通学時の着用率

は 100%で、10 件の自転車事故で命を守ることができたという(平成 29 年3月1日現在)。

- ・1年間かけて、県立高校の校長会、警察、保護者、生徒の代表等を入れてヘルメット義務化を決めた。ヘルメットの形は生徒の希望を入れて、7～8つのうちから好きなものを選んだ。
- ・ヘルメットを着用させることは非常に難しいが、命を守るために効果があるので、これから義務化が広がっていくことが望まれる。

(6)最近の自転車の安全利用に関する情報

- ・条例で自転車保険を義務化した自治体も増えている。非常に高額な賠償のケースが出ているので、自転車保険には必ず入る時代である。
- ・県教委が高校生に自転車安全講習と確認テストを受けることで自転車運転免許証を交付しているところもある。
- ・神奈川県大和市のように小学校5・6年生を対象に自転車保険付き自転車運転免許証を交付しているところもある。
- ・全国高等学校 PTA 連合会のように、一括で全校生徒に保険をかけるということをやっているところもある。

3. 自転車の基本的なルール

(1)自転車安全利用五則

- ・道路交通法2条で、自転車は軽車両とされている。これが基本である。自転車は「運転」する乗り物、自転車を「運転」する、との意識を持たせることが大切である。

(2)五則の1

「自転車は、車道が原則、歩道は例外」

- ・車道の左側を自転車で走るのに危険がある場合に備え、例外を3つ設けた。

「普通自転車の歩道通行可」の標識・標示がある場合

13歳未満の子ども、70歳以上の高齢者、身体の不自由な人が普通自転車を運転しているとき
車道又は交通の状況から見て、歩道通行がやむを得ないと認められるとき

(3)五則の2

「車道は左側を通行」

- ・自転車は軽車両である。

(4)五則の3

「歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」

- ・歩道は本来車両が入ってはいけない部分であることを忘れてはならない。
- ・小学生などには、歩道を歩く場合、車道寄りには自転車が通るから、できるだけその部分を避けて、自転車と接触しないように気をつけることを話してほしい。
- ・歩道では歩行者優先・車道寄りを徐行すること。

(5)五則の4

「安全ルールを守る」

飲酒運転・二人乗り・並進の禁止

「並進可」の標識がある場合は並進可。

夜間はライトを点灯

・横浜の高校2年生の女子生徒が無灯火の自転車で看護師に追突。看護師は腰と首を痛めて仕事ができなくなり、2年後に女子生徒と父親を相手に損害賠償請求訴訟を起こした。その結果、女子生徒に5000万円の支払いが命じられた。高校生が事故を起こした場合、父親ではなく事故を起こした本人が直接責任を負う事例も出てきているので話をしてほしい。

・ライトの意味は2つあり、自分の前方の安全確認(10m先まで照らせなければならない)、及び自転車の存在を相手に知らせることである。

信号を守る

・青信号の意味は「進んで(横断して)もよい」ではなく「進む(横断する)ことができる」である。しっかり周りの安全を確認してから横断するように、幼稚園や小学校では、繰り返し言ってもらいたい。

交差点での一時停止と安全確認

・信号機のある交差点では必ず二段階右折する。矢印の右折信号に従うことはできない。

・一時停止標識・標示は必ず止まる。重大事故につながるの、決して軽視してはならない。

(6)五則の5

「子どもはヘルメットを着用」

・保護責任者は、幼児・児童にヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

・頭部の損傷を防ぐ意味で非常に効果があるので大切である。

(7)その他

・傘差し運転・携帯電話使用運転・イヤホン等使用運転の禁止。

4. 自転車事故で問われる責任

自転車事故の当事者責任...責任は自動車事故と同じ

・9000万円台の賠償が命じられた例もある。

・医師、教師、調理師など免許を必要とする職業は、交通事故や違反で刑罰を受けることとなった場合、免許や資格が与えられなかったり、失職することがある。

自転車で事故を起こしたときの義務

・交通事故を起こした当事者には、道路交通法により救護措置、危険防止措置、警察への報告義務がある。警察への報告がない(義務を怠る)場合はひき逃げとなる可能性がある。

・交通事故の被害に遭った場合も、その場で即警察を呼び、学校に連絡することを繰り返し伝えていただきたい。

5. 自転車事故と保険

(1)自転車保険の種類

・傷害保険だけでなく、個人賠償責任保険には必ず入っておくこと。

・最初に自動車保険・火災保険等の特約を確認すること。現在、コンビニなどでも自転車保険を扱っている。

・TSマーク付帯保険は、乗った人が誰であっても、自転車にかけられている保険である。

TSマーク付帯保険・・・自転車点検整備を受けた日から1年間有効な傷害保険と賠償責任保険がついている。更新する場合は、自転車安全整備士のいる自転車店で再度点検を受ける。

(2)ハインリッヒの法則

・死亡事故など重大事故が1件発生する過程において、それ以前に小さな事故が29件発生していた。さらに調べてみると、ヒヤッとしたりハッとしたりしたことが300件発生していた。

・例えば雨の日に10分早く出るなどして、ヒヤッとしたりハッとするをなくすことによって300を150にすれば、重大事故は半減する。だから余裕を持って行動し、いつでも交通ルール・マナーを守ることを伝えていただきたい。

6. さらに交通事故防止のために

(1)反射材

- ・効果があることの理解をさせること。
- ・配って終わりではなく、その場で靴等に貼付する。

(2)内輪差

- ・車が曲がる時の内輪差による巻き込み事故に注意する。

(3)スマートフォンを見ながら運転することの危険性

- ・非注意性盲。...「見えているが認識出来ない」状況。
- ・イヤホンをして携帯電話を操作しながら赤信号で交差点に入った死亡事故の例もある。

(4)安全教育の5つの方法原理

・故吉田瑩一郎氏(日本体育大学名誉教授)が提唱

一回性の原理:一瞬の事故で命を落とすことがあること、一度の違反・事故で自分の夢や人生設計に大きな影響を与えることがあることを認識させる。

危険予測の原理:「もしかして」という意識を子どもたちに持たせる。

自己統制の原理:自分をコントロールできる力を持たせる。

生活習慣確立の原理:生活習慣の乱れは非行につながる。交通安全母の会が提唱した「交通安全は家庭から」というスローガンは非常に重要である。家庭の中で日常的に交通安全について話すことが非常に大切だと思う。

地域性の原理:都市中心部で暮らしている子どもと、郊外の子どもの違いは全く違う。住んでいる地域の実情にあった交通安全教育をしなければならない。

(5)まとめ

・家庭における生活習慣の確立が大切なポイント。また、テレビ等で交通事故が報じられた時、身近なこととして常に話題になるような家庭が多くなることを望まれる。

・交通安全教育は命の教育。「人生一度、命はひとつ」が根本である。

・皆さんが日々取り組んでいる活動は命を守ることにつながる重要で大切な活動であることを再認識していただき、引き続きご尽力いただきたい。心からエールを送りたい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 質問・回答 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【質問】

地元でも自転車の乗り方が危険な中高生が沢山います。若者には、なかなかうるさく言えない状況です。大切な命を若くして亡くさないために若者に届く効果的な声かけなどがありましたら、教えて下さい。

【回答】

事故事例を話しても、ほとんどの中高生は、「自分は大丈夫だ」と思っています。では、どう気づかせるのか、どう自分のことと思わせるのかということになります。道交法違反が自分の夢やこれからの人生設計を一瞬にしてダメにしてしまうことがあることや、事故等で賠償額が高額になっていることの実態を理解させることなどが大切と考えます。まさしく「大切な命を若くして亡くさないために…」だと思います。

【質問】

なぜ、自転車横断帯が少なくなっているのでしょうか。

【回答】

自転車横断帯は歩道と歩道をつなぐよう設置されています。「車道通行が原則」とされている自転車にとって、交差点を直線的に通行できるように自転車横断帯を撤去しています。

また、自転車が、自転車横断帯のある交差点を横断する場合は、自転車横断帯を通らなければならない、と道路交通法で定められています。

しかし、車道の左端を通行している際に、自転車横断帯へ入るためには、交差点に入ったら少し左側(横断歩道側)へ進路を変更しなくてはなりません。

その挙動が、後方から左折してくる自動車から見ると、自転車が左折するものと勘違いされ、巻き込まれる危険性があるので、交差点をそのまま直進できるよう、撤去する方向性となっています。

ただし、自転車の安全を確保するうえで必要と考えられる交差点等では、引き続き設置されています。

【質問】

自転車の手信号について。現在、実質的に機能していない。本来やるべきことを、指導することもできないような気がするが、すべてやるように学生に求めることも間違いではないかと思う(だれもやっていないので)。この点について、学生から指摘される、又は、学生に説明する場合に学生も納得するような方法はありませんでしょうか。

【回答】

「手信号」は、交通他者に対して、自分の「行動変化」を予め伝える重要な役割です。たとえば、後続車を無視して急ブレーキをかけたり、急な進路変更をしたりすることは追突事故などの重大事故を誘発させることにもなりかねません。その意味から、手信号を通じたコミュニケーションをしながらの運転は非常に重要だと考えます。

しかしながら、片手運転になることで、ブレーキがしっかりとかけられない、ハンドルがうまく操作できな

い危険性もありますし、中学生・高校生の世代で最も多い自転車事故の違反を見ると、手信号に係るものではなく、「一時不停止」「安全不確認」となっており、「『止まれ』で止まらない」といった、もっと基本的な問題があることが分かります。

まずは、自ら、そして他者の安全を守るために何が必要か、ということで基本的な指導があつてから、その次の段階として、より安全な交通行動を取るために「周囲の交通他者とのコミュニケーション方法」として指導を行ってみてはいかがでしょうか？

「なぜ」という意味を教えることは将来のより良いドライバーの素地を育てるプレドライバー教育にもつながります。その学生の「一生につながる」指導を心掛けてみてはいかがでしょうか。

【質問】

自転車の安全教育と自転車活用推進法のいう、自転車活用推進計画に自治体が盛り込むべき安全安心な教育(交通ルールの周知と安全教育)を推進する必要があると考えるが、今の活動に加え、どんなことに取り組む必要があるのか、先生の考えを聴かせていただきたい。

【回答】

自転車利用を拡大させる際に、安全利用がおざなりにならないよう、事あるごとに交通ルール遵守の必要性と交通ルール違反運転の危険性を周知する必要があります。駅前駐輪駐車場の利用に、交通安全講習(1時間程度)を受講すれば、優先権を付与するなどという特典を与えることにより、交通ルール等を年間数千人受講している自治体もあります。

すでに行っておられるかもしれませんが、自治体の行う諸事業に交通安全を組み込むことが考えられます。例えば成人式で3分でも5分でも時間をもらい、映像やパンフレット等を用意し、飲酒運転撲滅のほか、自転車の安全利用を訴えたり、祭り等で市街を練り歩く際に、交通安全を訴える部分を盛り込ませる等が考えられます。誰もが乗ることができる自転車であるからこそ、誰もが自転車の交通ルールを知っておく必要があります。その意味で、「交通安全が日常の生活の中に常にある」ということだと思います。

【質問】

マウンテンバイクは普通自転車ではないということですが、どこを走るのが良いのでしょうか？

【回答】

普通自転車(長さ 190cm 以下、幅 60cm 以下等の定義があります)でない場合は、常に車道の左端を通行することとなりますが、注意点として、公道を走行するためには、前照灯や尾灯(もしくは後部反射板)や、前後輪のブレーキ等の安全装備が必要となる、という点があります。

マウンテンバイクは自分の肩幅にハンドルをカットして使用するため、市販されているものでは、ハンドルがカットすることを前提として長めのものも多く見受けられます。また、前照灯がついていない状態で市販されているものも多く、その場合は別途購入する必要があります。

【質問】

歩行者の努力義務で「普通自転車通行指定部分をできるだけ避けて通行する」とありましたが、交通安全教育指針では、「中央を歩く」とあったと記憶しておりますが、自転車との接触を避けるため、最初

から車道から一番離れた所を歩くよう、指導してもよろしいのでしょうか。

【回答】

交通安全教育指針でも、普通自転車通行指定部分がある場合はその部分を避けて通行するよう示されていますので、問題ありません。

ただし、車道から一番離れたところであっても、駐車場や路地、建物の陰等から自転車や自動車等が出てくる危険がありますので、そういった点もぜひご指導いただければと思います。

ご参考まで、交通安全教育指針から抜粋しますと、「歩行者は、(中略)歩道に普通自転車通行指定部分がある場合はその部分を避けて通行しなければならないこと、(中略)歩行者用道路では道路の中央部を通行することができることを理解させる」となっており、中央を歩くとされているのは「歩行者用道路」になります。

閉講式・主催者挨拶 / 1月30日(水)11:45～11:55

近藤 共子

(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付
交通安全対策担当 参事官)



交通安全指導者養成講座の閉講に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、3日間にわたる講座を真剣かつ熱心に受講していただき、大変お疲れ様でした。

本講座では、子どもや高齢者の交通安全教育に関する講義、あるいは各地域で活躍されている方々の事例発表など、交通安全指導に必要なプログラムを、限られた時間の中で受講していただきましたが、基礎的理論や実践的手法に関する知識・技能を身に着けることはできましたでしょうか。

交通安全対策は、必ずしもその効果がすぐに現れるものではなく、地道に継続的に実施することが重要であります。

今後、更なる交通事故の減少のためには、皆様方の役割は非常に大きなものがあります。皆様が、本講座での成果を各地域の交通安全指導の場において大いに活用していただき、地域のリーダーとして活躍されることを期待申し上げる次第であります。

最後になりますが、引き続き、交通安全教育や街頭活動へのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、今後の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

4. アンケート集計結果

別途エクセルデータ挿入